
魔法のペン

亜人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法のペン

【Nコード】

N3792F

【作者名】

亜人

【あらすじ】

普通の高校生、清水幸一。彼が偶然立ち寄った文具店で、偶然譲り受けた一本のペン。この一本が彼の運命を大きく変え、そして収束させる――。

第一話：災い転じて

「くそっ、やられた……！」

とある町の、とある駅前のバス停。

茶髪の少年が叫んだときには、犯人の姿はすっかり遠くに消えていた。

俺の名前は『清水幸一』。

近所の高校に毎日バスで通っている。

数秒前のことだ。

いつものようにバス停に向かっていた俺は、サングラスをした男とぶつかった。

荷物が散らばる。

「あ、すいません」

そう言おうとした瞬間。

男は俺のカバンを拾い上げて、急に走り出したではないか。

「はあ？」

なぜ自分の荷物をほったらかしにして、俺のカバンを持って行くのか。

あっけに取られた俺は、男がおき去った荷物を見る。
中身は、全て新聞紙だった。

「……………」

追いかけてようにも、既に男の姿は見当たらない。

俺はバス停の手前で肩を落とした。

「全く……なんで俺みたいな貧乏な高校生から盗むんだ。
やるなら金持ちから盗ってくれ、ホントに」

ぼやきながらも、俺は学校に向かう。

かろうじて財布はあったので、行きしなに文房具屋に立ち寄る。

今日は高校の定期考査があるのだ。

筆記用具がなけりゃあテストなんて受けられたもんじゃない。

こんな日に限ってひったくりにあうなんて、つくづく俺も不幸な……。

そうこうしているうちに、文房具屋を見つけた。

……だが、俺がいつも利用する文具屋ではなかった。

「あれ？　こんなとこに店あったんだ」

時間もないので、とりあえずはここで筆記用具を買うことにした。

第二話：タダほど高い、物はない

いらっしやい、という声。

店に入ると腰の曲がった老人が出迎えた。

正直急いでいるので、若い店員の方が嬉しかったが。

ともかく、俺は店内を見渡してみた。

しかし望みの品は見当たらない。

「あの……シャープンと消しゴムありますか？」

俺は堪らず老人に尋ねる。

「うちには置いてないねえ」

「……………」

どうやら今日の俺は、とことんついてないらしい。

よもやシャープンすら置いていない店に当たるとは……。

仕方ない、少し遠いがいつもの文具屋に行くしかあるまい。

俺が店を出ようとした時だった。

「ああ、ちよつと待ってなさい」

俺は何故か店主に呼び止められた。

そして店主は店の奥に消えていった。

……勘弁してくれ。

数分後、店主は埃かぶった箱を持って出てきた。

「はい」

そう言って箱を俺に渡してきた。

中を見ると、小ぶりなペンが一本入っていた。

「はいつて……値段は幾らなんですか」

「ただであげるよ」

「……」

人間ってタダに弱いよな。

結局俺は、そのペンを持って学校へと急いだ。

「ふう……ギリギリだな」

試験開始前の予鈴が鳴り響く直前に、俺は自分の席につく。息切れが激しい俺を見て、隣の席の神埼が喋りかけてきた。

「お前が寝坊なんて珍しいな。」

なんかあつたんだろ？」

「ああ、ひったくりに遭って文房具調達してた」

俺がそういうやいなや、神崎はニヤニヤと笑う。

…… 人事だと思ってやがるな。

俺の顔の歪みを察知したのか、神崎はあわてて謝る。

「はは、ごめんごめん。

とにかく、試験がんばろうぜ」

「ああ」

そして、問題用紙が配られた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3792f/>

魔法のペン

2010年10月9日23時37分発行